

## 佐賀の果樹 4 月号原稿

### 「ナシヒメシンクイの生態と防除対策について」

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当 主査 石丸 晃成

#### ○はじめに

ナシヒメシンクイは、ナシやモモの果実を加害する重要な防除対象害虫です。当県では 2024 年の秋頃から発生量が増加しており、2025 年は春から年間を通して発生が多く、特に晩生の品種で果実被害が多く確認されました。秋期も発生が多かったことから、越冬量も多く、2026 年も発生量が多くなる恐れがあります。ここでは本虫による果実被害を軽減するため、今一度生態と防除対策を確認したいと思います。

#### ○生態

本虫は、当県では 3 月中旬ごろから 10 月下旬ごろまで、成虫が年 6 回程度発生します(図 1)。越冬世代は老齢幼虫が粗皮の隙間等で越冬し(写真 1)、3 月中旬ごろから成虫となり、ウメやモモ、スモモ、オウトウ、サクラ等のバラ科樹木に産卵します。孵化した幼虫は新梢に食入し、芯折れと呼ばれる被害を発生させます(写真 2)。この被害は第 2 世代幼虫が発生する 6 月頃まで続きます。

ナシでの被害が問題となるのは第 3 世代幼虫が発生する 7 月以降で、果梗部や果頂部の凹部分から幼虫が果実内部に食入します(写真 3)。成虫の発生は 11 月まで続くため、成虫が飛来する回数が増える晩生の品種ほど被害を受けやすくなります。2025 年は前述のとおり 2024 年の影響からいずれの時期も発生量が平年値を大幅に上回っており、晩秋季まで高温乾燥が続いたことから同時期までの被害が増加したものと考えられます。

なお、九州各県に 2025 年の被害状況について尋ねたところ、夏季の被害は多かったものの秋季の被害は少なかった県、県内の一部地域のみで被害が多かった県、被害が問題にならなかった県、というように九州内でも地域によって被害の様相が異なっており、今後被害多発の要因について調査を行っていく予定です。

#### ○対策

##### 耕種的防除

##### ① 周辺環境の整備

圃場周辺の上記のバラ科樹木は発生源となるため、不要なこれらの樹はできるかぎり伐採します。伐採が難しい場合は次に挙げる対策をそれらの樹に対しても実施してください。

##### ② 被害新梢・被害果実の除去

ほ場やほ場周辺をこまめに見回り、芯折れ被害の出ている新梢(特にほ場周辺のバ

ラ科樹木) や虫糞が付着している果実は見つけ次第処分してください。

### ③ 粗皮剥ぎ

老齢幼虫は粗皮下で越冬します。粗皮剥ぎを行い幼虫の越冬場所を無くすことで密度を低下させます。また、粗皮剥ぎを行った樹に対し、秋季に枝幹に粗布などを巻き付けると幼虫が粗布へ移動するので、冬季に外して処分することで越冬幼虫を防除できます。

## ○薬剤防除

本年はナシヒメシンクイの発生量が多いことが予想されますので、必ずフェロモン剤と化学農薬を併用した防除を実施してください。

フェロモン剤は、性フェロモン剤により交信かく乱を行うことで、交尾を阻害し次世代の虫の発生を抑制します。第1世代成虫が発生する前の5月上中旬頃に、圃場10aあたり50～200本(剤により異なる)を設置します。なお、ナシで同様に問題となるモモノゴマダラメイガにはフェロモン剤の効果が無いため、必ず6月上旬と7月上旬に表1に記載のある薬剤で防除を行ってください。

被害が問題となる7月上旬以降は10～14日おきに表1に記載のある薬剤による防除を行います。成虫は長期間にわたって飛来するため、防除の間隔が空くと被害が発生します。雨天が続く場合も晴れ間に防除を行うなど、散布間隔が空かないように注意してください。

なお、フェロモン剤の使用にあたっては下記の注意点を守ってください。

- ・フェロモン剤はなるべく広範囲(理想は3ha以上)に設置したほうが安定した効果を得られるが、小面積でも効果が認められることが多いので、設置にあたっては関係機関に相談する。
- ・圃場の外周部では周囲からの飛び込みを防止するために設置量を圃場の中央部より1～2割増しにする
- ・フェロモン剤は空気より重く傾斜地では下部に流れやすいため、傾斜地に設置する場合は圃場上部に多く設置する。
- ・一般的にフェロモンは高温になるほど揮発しやすいため、必ず直射日光の当たらない木陰に設置する。
- ・フェロモン剤の効果は約4カ月とされているため、9月以降に収穫する品種は化学農薬による防除を継続する。
- ・フェロモン剤を設置した各圃場にモニタートラップを1～2器設置し、5～7日ごとに確認する。正常に交信がかく乱されている場合はトラップには捕獲されないが、雄成虫(写真4)の捕獲が確認され、さらに5～7日後にも再度捕獲が確認された場合は交信かく乱の効果が出ていないため早急に化学農薬による防除を行う。
- ・外周部の樹の被害状況を確認し、被害が確認された場合は早急に化学農薬による防除を

行う。

○おわりに

以上、昨年発生が多かったナシヒメシンクイについて、その発生生態と対策を紹介しました。本格的な防除対策の時期は5月からとなりますが、圃場周辺の不要なバラ科樹木の伐採や芯折れ被害の確認等、今からでも出来ることはあります。常日頃から園内外をよく観察して被害ゼロを目指しましょう！



写真1 ナシの樹上で越冬するナシヒメシンクイ老齢幼虫



写真2 ナシヒメシンクイによるサクラの芯折れ被害



写真3 ナシを加害するナシヒメシンクイ幼虫 (○) と虫糞



表1 シンクイムシ類の防除（露地ナシ）

（参考：令和8年度版 佐賀県総合防除計画より表を一部改変）

散布時期	IRAC コード	薬剤名	収穫前 日数	使用可 能回数	他に登録が ある主な害虫
5月上中旬に 設置	—	コンフューザーN	—	—	チャノカクモンハマキ モシクイガ
		ナシヒメコン	—	—	
6月上旬	1B	スミチオン水和剤 40	21日	6回	ハマキムシ類
	15	ノーモルト乳剤	前日	2回	
7月上旬 ～8月中旬  (第3～第4 世代幼虫)	1A	オリオン水和剤 40	前日	2回	ハマキムシ類
	1B	スミチオン水和剤 40	21日	6回	カメムシ類 ナシグンバイ ハマキムシ類 ナシチビガ
	3A	スカウトフロアブル	前日	5回	カメムシ類 ナシチビガ
		テルスター水和剤	前日	2回	カメムシ類
		アグロスリン水和剤	前日	3回	ハマキムシ類
		アーデント水和剤	7日	3回	カメムシ類
	4A	ダントツ水溶剤	前日	3回	アブラムシ類 カメムシ類 チュウゴクナシジラミ
	5	ディアナ WDG	前日	2回	ハマキムシ類 チュウゴクナシジラミ
28	サムコルフロアブル 10	前日	3回	ハマキムシ類	
	ヨーバルフロアブル	前日	2回		

(注) 10月以降に収穫する品種は9月中旬頃まで防除を継続する

(注) 各薬剤については最新の農業登録情報や販売情報を確認してください